

2025 年度
自己点検・自己評価 報告書

学校法人阪和学園
錦秀会看護専門学校

1. 教育理念・目的・目標

1) 学校の教育理念・目的・目標の設定

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教育理念は明文化している。	○		
(2)学校独自の教育理念を持っている。	○		
(3)教育理念・目的・目標は人材育成の内容と一致している。	○		

2) 教育理念・目的・目標の達成

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)教職員は教育理念・目的・目標について認識している。	○		
(5)教職員は教育理念・目的・目標に向けて努力している。	○		
(6)学生は教育理念・目的・目標を理解している。		○	

3) 教育理念・目的・目標の点検

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(7)教育理念・目的・目標と教育課程の考え方が一貫している。	○		
(8)教育理念・目的・目標は年一回点検している。		○	

「1. 教育理念・目的・目標」に関する取組の概要と今後の課題

教育理念として「やさしく“生命（いのち）”をまもる」ことができるよう、感性豊かな人間性と倫理観、科学的思考力をもとに、主体的に判断し実践する能力及び専門職業人としての役割を果たし得る基礎能力を養うことを掲げ、教育目的・教育目標についても一貫性をもって設定している。これらは、学生便覧、実習要綱、ホームページ等に明記し、教職員及び学生への周知を図っている。

また、教育理念や教育目標について、学生がどの程度理解し行動に反映できているかについて、評価方法の検討を進めている。今後は、学生生活アンケート等を活用し、人間性や倫理観、協働性などの視点を可視化できる仕組みづくりを進めていく必要がある。

今年度は、新カリキュラムで学んだ学生が初めて卒業したことを踏まえ、教育成果や教育課程の検証を進めた。今後は、カリキュラムループリックの作成等を通じて教育評価の充実を図り、より一貫性のある教育の実践につなげていく。

2. 学生の受入れ

1) 学生募集の方法

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)学校の教育理念・目的・目標を反映した学生募集方針を定めている。	○		
(2)入学定員を明示している。	○		
(3)総合型選抜・学校推薦型選抜・社会人選抜・一般選抜入試制度の有無は明記している。	○		

2) 入学者選抜方法

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)入学者選抜の方法は明示している。	○		

(5) 合格基準は明確にしている。	○		
(6) 転入学の方法・基準を明文化している。	○		

3) 学生募集の広報

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(7) 学生募集要項を作成し、看護の情報を提供している。	○		
(8) 志願者が関心を持つように工夫されている。	○		

4) 学生定員の充足状況

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(9) 在学学生は定員の 95%以上を充たしている。			○
(10) 合格者からの入学率は 90%以上である。	○		
(11) 学校推薦型選抜入試の入学生は定員の 60%以内である。	○		

5) 学生募集に関する分析・評価体制

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(12) 広報委員会が定期的開催されている。	○		
(13) 志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている。	○		
(14) 多様な選抜方法と学生の状況について検討している。	○		

「2. 学生の受入れ」に関する取組の概要と今後の課題

少子化の進行や大学志向の高まりにより、看護専門学校を志望する学生の確保が全国的に厳しい状況となる中、本校では広報委員会、オープンキャンパス委員会、ホームページ委員会及び ICT 委員を中心に、学生募集活動に取り組んだ。加えて、教職員が指定校を中心に高校訪問を積極的に行い、本校の教育内容や支援制度等の周知に努めた。

オープンキャンパスや広報活動の充実に加え、近隣地域へのポスティング、3 次入試の実施など、学生確保に向けた取組を進めた。また、12 月には Instagram アカウントを開設し、学校情報やオープンキャンパスに関する情報発信を行った。閲覧者数の増加がみられ、オープンキャンパス予約への流入も確認されるなど、広報活動の充実につながった。さらに、2 月には学生確保対策本部を立ち上げ、全学的な体制整備を図った。しかしながら、少子化や大学志向の高まり等の影響もあり、出願状況は厳しく、定員充足には至らなかった。

今後は、より効率的かつ効果的な学生確保につなげるため、指定校の見直しや高校訪問の時期・担当体制について検討するとともに、社会情勢や進学動向を踏まえた広報活動の一層の充実にも努めていく必要がある。

3. 学生生活への支援

1) 健康管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 定期的に健康診断を実施している。	○		
(2) 学生が日常生活の健康管理ができるよう指導している。	○		
(3) 臨地実習での感染防止の対策をとっている。	○		

(4)健康記録は的確に記載し、活用している。	○		
------------------------	---	--	--

2) 学生相談室、進路相談室の設置と対応

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5)学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している。	○		
(6)プライバシーが保持されるシステムができている。	○		
(7)学生相談の専任のカウンセラーを置いている。	○		

3) 学生委員会活動への支援

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)学生委員会活動が円滑にいくために助言・指導している。		○	
(9)他学年と交流の機会をもっている。		○	

4) 福利厚生

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(10)奨学金制度について学生に周知している。	○		
(11)学生は傷害保険に加入している。	○		

「3. 学生生活への支援」に関する取組の概要と今後の課題

4月に健康診断を実施するとともに、入学時に配布する健康手帳を活用し、学生自らが健康状態や検査結果を記録することで、健康管理への意識向上に努めている。また、実習や授業が円滑に実施できるよう、教職員・学生ともに健康管理を継続し、感染対策にも配慮した学校運営を行った。

学生の委員会活動については、教員の支援のもと活動を実施しており、ボランティア活動委員会ではコンタクトレンズ回収リサイクル活動に参加するなど、社会貢献活動にも取り組んだ。また、10月に実施したスポーツ大会では、2年生が中心となり1年生と協力しながら企画・運営に関わり、学年間交流を深める機会となった。地域住民の参加もあり、本校の教育活動を地域へ発信する機会ともなった。

奨学金制度については、日本学生支援機構等の公的制度に加え、医療施設の奨学金制度や教育ローン等についても情報提供を行い、学生の状況に応じて学びを継続できるよう支援している。今後は、学生が主体的に活動できる機会を増やすとともに、他学年との交流を深め、より充実した学生生活支援につなげていく必要がある。

4. 教育課程

1) カリキュラムの立案

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教育理念・目標にあった科目設定をしている。	○		
(2)教育科目設定には学校の特色を盛り込んでいる。	○		
(3)科目設定には学習者・社会のニーズを考慮している。	○		
(4)指定規則に合致した科目・単位を設定している。	○		

2) カリキュラムの効果的編成

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5)教育理念・目標にあった科目設定をしている。		○	
(6)科目の位置づけと科目間の関連性を明示している。	○		
(7)臨地実習目標は明確に計画されている。	○		

3) カリキュラムの点検・見直し

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)カリキュラムの見直しは、定期的（年1回）に行っている。	○		
(9)カリキュラムの見直しは学生・講師・教員の意見を定期的に反映している。		○	
(10)臨地実習の計画・指導は効果的であるかを定期的に見直している。	○		

「4. 教育課程」に関する取組の概要と今後の課題

今年度、新カリキュラムで学んだ学生が初めて卒業した。本校では、河内長野市南花台という地域性を活かし、地域とのつながりを重視した教育課程を編成しており、地域・在宅看護論領域や地域におけるヘルスプロモーション活動等を通じて、地域の人々の健康を支えることができる看護師の養成に努めている。

新カリキュラムが一巡したことから、教育内容や学習成果について評価を進める段階にある。今後は、カリキュラムループリックの作成に着手し、教育課程全体の評価及び検証を行うことで、より効果的かつ一貫性のある教育の実践につなげていく必要がある。

また、本校の特色ある教育内容について積極的に発信し、地域に信頼される学校づくりを進めることで、本校の魅力向上にもつなげていくことが望まれる。

5. 教育活動・教育指導のあり方

1) 学習支援（ガイダンス）

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている。	○		
(2)学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している。		○	
(3)シラバスが作成され活用について学生に説明している。		○	

2) 授業の計画的遂行・調整

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)授業計画に基づいて授業は実施している。	○		
(5)時間割の進度は、授業計画通りに行われている。		○	
(6)科目毎の授業内容を整理し、担当者へ周知している。	○		
(7)必要に応じてオンラインでの授業が行われている。	○		

3) 授業科目の担当および時間

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)科目を担当する教員（専任・非常勤）は専門分野についての専門家		○	

が担当している。			
(9)教員一人当たりの週授業時間数は15時間以内である。		○	
(10)教員の実習担当時間数は3時間ごとに1時間程度の準備時間が見込まれている。		○	
(11)教員間の講義・実習担当時間の配分はほぼ均等である。		○	

4) 教育の工夫・研究

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(12)授業内容は精選され、学生のレディネスに沿って構成されている。	○		
(13)学生が自主的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている。		○	
(14)視聴覚教育機器・教材の質と量は十分で、効果的に活用されている。	○		
(15)効果的な教育方法について、検討の場を持っている。		○	
(16)教育において日常的に教材研究を行っている。			○

5) 授業評価

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(17)教員は授業終了時に、学生による評価を実施している。	○		
(18)学生による評価は評価表を作成し行っている。	○		
(19)教員自身による自己評価を実施している。			○

6) 単位互換

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(20)大学・短大・専修学校への単位互換が可能な科目設定・時間設定である。	○		
(21)大学（短大）卒の入学生に単位の認定制をとっている。	○		

7) 成績評価・単位認定

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(22)評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われている。	○		
(23)授業科目毎に評価者と単位認定を明示している。	○		
(24)追試験・再試験・単位未修得者の評価基準を明確にしている。	○		
(25)進級・進度の基準を明示している。	○		
(26)履修認定会議・卒業判定会議は定期的に開催している。	○		

「5. 教育活動・教育指導のあり方」に関する取組の概要と今後の課題

新入生には入学後にカリキュラムガイダンスを実施するとともに、在学生には進級時にシラバスの配布及び学生便覧の説明を行い、教育内容や履修に関する理解促進に努めている。

授業については、授業計画に基づき実施している。今年度は一部科目において講師調整や授業進度の見直しが必要となったが、非常勤講師及び専任教員間で連携を図り、履修科目について年度内に必要な教育内容を修了できるよう対応した。また、単位修得については、履修認定規定に基づき適切に実施している。准看護学科については、今年度末の閉科を見据え、対象学生が円滑

に修了・卒業できるよう個別支援を行った。

一方で、学生便覧やシラバスの活用状況、授業進度の調整、教員間の授業・実習時間の配分等については、改善の余地がある。また、学生が主体的に学ぶ授業方法の工夫や、効果的な教育方法に関する検討、教材研究等についても十分とはいえない面がみられる。今後は、教員間で課題を共有しながら、教育内容及び教育方法の見直しを進め、より安定した教育体制につなげていくことが求められる。

6. 実習指導体制

1) 実習場の開発

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している。	○		

2) 実習指導体制

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(2) 実習要綱は各看護学毎に作成している。	○		
(3) 実習指導者会議は定期的開催している。	○		
(4) 実習指導体制が明確にされ、指導者は1看護単位に2名以上配置されている。	○		
(5) 実習指導者は実習要綱を元に指導計画を立案・実施・評価している。	○		
(6) 実習指導員と教員は、役割分担を明確にして指導している。	○		
(7) 実習指導者は学生の看護ケアに適切にアドバイスできている。	○		
(8) 実習指導者は看護実践の創意工夫に努める姿勢がある。	○		

「6. 実習指導体制」に関する取組の概要と今後の課題

実習については、多くの実習施設の協力のもと実施しており、臨床指導者との打ち合わせを十分に行うことで、指導内容を共有し、学生に対して一貫した指導ができるよう努めている。特に、継続して実習を受け入れていただいている施設とは良好な関係性が構築されており、教員との連携も円滑に行われている。

今年度は、精神看護学実習において、新たに実習施設の協力を得ることができ、実習体制の充実につながった。また、新カリキュラムに基づく実習についても継続して実施し、地域とのつながりを意識した学びの充実に努めた。

一方で、科目によっては実習先の確保に苦慮する状況もあるため、今後も安定した実習環境を維持できるよう、新たな実習施設を含めた実習先の確保及び連携強化に取り組んでいく必要がある。

7. 研究・研修活動

1) 教員の研究活動

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 教員は専門領域の研究活動に取り組み、その内容を公表している。			○

2) 研修活動への積極的参加と教員の活動

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
--------	-------	---------	--------

(2)教員は年1回以上、自主的に研修に参加している。		○	
(3)教員は、専門領域の臨地実習、研修を担当している。	○		
(4)教員が研修に参加できるようシステム作りをしている。		○	
(5)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している。	○		

「7. 研究・研修活動」に関する取組の概要と今後の課題

専任教員は、各自の専門領域や役職に応じて研修会へ参加し、研修内容について報告書を提出するとともに、教職員間で学びを共有し、教育活動への活用に努めている。また、教育の質向上を目的として、研究授業や教員間での意見交換を行い、授業改善及び教育力向上につなげている。

地域貢献及び本校の教育活動の発信を目的として、南花台公民館における健康講座へ継続して講師を派遣し、地域住民の健康づくりに寄与するとともに、本校の認知向上にも努めた。今後も、地域からの要請に応じ、積極的に対外的な活動を行っていく予定である。

一方で、教員個々の専門領域における研究活動については、十分な時間の確保が難しい状況もあることから、今後は研修機会の充実に加え、研究活動にも取り組みやすい環境整備について検討していく必要がある。

8. 組織管理・運営

1) 学校の組織と関連組織の整備

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができている。		○	
(2)教員組織と事務組織は適正に連携している。	○		
(3)教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている。		○	
(4)事務組織は運営に必要な人数が配置されている。	○		
(5)各職員が命令系統に沿ってその役割を果たしている。		○	
(6)教員の人事について副学校長・学科長は意見を具申している。	○		
(7)教員の将来方針を把握し、助言している。	○		

2) 教師・実習者の要件

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)講師の資格要件を取得できるようにしている。	○		
(9)非常勤講師は資格要件をもとに選考している。	○		
(10)実習指導者の資格要件を取得している。	○		

3) 教員人事の適正配置

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(11)教員は看護学の専門領域毎に配置されている。	○		
(12)副学校長は専任で配置されている。		○	
(13)学科長は専任で配置されている。		○	
(14)実習調整者は専任で配置されている。	○		

4) 職員の職務分掌

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(15)職務分掌は作成している。		○	
(16)学校長は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(17)副学校長は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(18)事務長・事務長補佐は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(19)学科長・実習調整者は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。		○	
(20)教員は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		
(21)事務員は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		

5) 会議への参加運営

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(22)副学校長は学校運営会議に出席し、必要時意見を述べている。	○		
(23)学校運営会議は定期的に開催している。	○		
(24)教員・カリキュラム会議は定期的に開催している。		○	
(25)講師会議は定期的に開催している。		○	

6) 学籍の管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(27)学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている。	○		
(28)学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている。	○		

「8. 組織管理・運営」に関する取組の概要と今後の課題

教員、事務職員とも、それぞれの役割・責任の遂行に努めるとともに、教員組織及び事務組織の体制整備を行った。また、教務と事務部の連携を強化し、学校運営及び学生支援が円滑に進むよう取り組んだ。

今年度は、年度途中に管理運営体制の変更があったが、教職員間で連携・協力を図りながら、教育活動及び学生支援に支障が生じないよう対応した。また、大阪府専任教員養成講習会を修了した教員が専任教員として復職し、教育体制の充実につながった。

今後も、教員体制の充実や業務負担の軽減に向けた取組を進めるとともに、組織間の連携を強化し、安定した学校運営につなげていく必要がある。

9. 施設設備

1) 校舎の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)看護学別に演習できるような実習室の配置(物品等)がされている。	○		
(2)Wi-Fi環境は整っている。	○		
(3)コンピューターを備えた部屋を有している。	○		
(4)専用の図書室を有している。	○		
(5)体育館または講堂を有している。	○		

(6) 校内施設利用規程は作成している。	○		
(7) 施設利用規程には学生の自己学習に使用できるよう配置している。	○		

2) 学生支援施設の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8) 保健室がある。	○		
(9) 学生相談室が設置されている。	○		
(10) 自習室の整備ができている。	○		
(11) 学生用トイレ、更衣室がある。	○		
(12) 学生ホールは交流の場として活用している。	○		
(13) 学生ホールは整備され、憩いの場作りができている。	○		

3) 図書室の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(14) 図書室および資料は分野ごと、領域毎に分類され整理されている。	○		
(15) 蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である。	○		
(16) 専門分野は専門領域毎に計画的に増補している。	○		
(17) 学術雑誌は指定基準以上の種類を有している。	○		
(18) 視聴覚機器が整備されている。	○		
(19) 図書と学術雑誌およびビデオ・DVD等の整備点検はできている。	○		
(20) 司書を配置している。	○		
(21) 学生が利用しやすい時間帯に開室している。	○		
(22) 新刊図書の紹介をしている。	○		
(23) 必要な図書整備の予算計画ができている。	○		
(24) 文献検索のためのインターネットの設備がある。	○		

4) 教材の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(25) 教材教具は定期的に点検を行っている。		○	
(26) 専門領域毎に教育内容に合った教材を増備している。	○		
(27) 機械・器具、標本、模型は学生数に見合って十分な数を整備している。	○		
(28) ビデオ・DVD等、視聴覚教材は自己学習に使用できる。	○		
(29) 教材購入の経費は年次毎に計画し増備している。	○		

「9. 施設設備」に関する取組の概要と今後の課題

各教室、学習支援施設、図書室については、適切な整備及び維持管理を行っている。Wi-Fi環境も整備されており、学生は各自のタブレット端末を活用し、電子教材の閲覧やアンケート回答等を円滑に行うことができている。一部授業ではZoomを活用した遠隔授業も取り入れ、教育環境の整備を進めた。

図書室蔵書については適切に管理されており、定期的な図書販売を通じて学生の学習支援を行っ

ている。教育に必要な教材についても教材委員を中心に管理し、演習進度に応じた購入や修理を実施している。

今後は、学生アンケート等による意見収集を継続しながら、ICT 活用を含め、より良い学習環境の整備を進めていく。

10. 社会への貢献

1) 地域社会との連携と社会への啓蒙

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている。	○		
(2) 学校行事は地域社会を考慮して教育計画に位置づけている。	○		
(3) 地域への働きかけは社会のニーズに応じた内容である。	○		

2) 近隣関連施設との連携

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4) 近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している。		○	
(5) 地域に学校を開放している。		○	
(6) 近隣関連施設との情報交換および連携システムができている。		○	

「10. 社会への貢献」に関する取組の概要と今後の課題

地域で開催された南花台夏祭りへの出店、スポーツ大会への地域住民の参加、南花台福祉委員会 25 周年記念事業イベントへの参加、健康講座への講師派遣などを通じて、地域との交流及び社会貢献活動を実施した。また、2 月には南花台中学校における特別授業へ講師として参加し、看護に関する学びの機会を提供した。

これらの取組を通じて、本校の教育活動や看護の魅力を地域へ発信するとともに、地域との連携強化に努めた。今後も、地域に根差した学校として社会貢献活動を継続し、本校及び看護への理解促進につなげていくことが望まれる。

11. 予算

1) 事業計画

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 学校の事業計画を立てている。	○		
(2) 事業計画は学園の全体計画の中に適切に位置づけられている。	○		
(3) 中・長期目標の執行計画が立てられている。		○	

2) 予算の執行

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4) 年間の予算計画・執行状況を把握し、必要に応じて修正している。	○		
(5) 職員は収支の状況を把握している。		○	

3) 経営意識

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
--------	-------	---------	--------

(6)職員全員が経営意識を持っている。		○	
(7)職員は歳出削減に向けて努力している。	○		

「1 1. 予算」に関する取組の概要と今後の課題

年間予算とその執行状況については、毎月開催する学校運営会議において報告し、職員への情報共有を行った。学生確保を取り巻く環境が引き続き厳しい状況にあることに加え、物価高騰等の影響も踏まえ、効率的・効果的な学校運営に努めた。

今後も、収支状況に関する情報共有を継続するとともに、限られた予算の中で教育環境の維持・充実を図りながら、経費の適正な執行及び効率化に向けた取組を推進していく必要がある。

12. 学校評価

1) 自己点検・自己評価

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)学校自己点検・評価のシステムが作られている。	○		
(2)自己点検・評価に必要な基礎データ等の整備がなされている。	○		
(3)自己点検・評価を定期的実施している。	○		
(4)自己点検・評価の結果を公表している。	○		
(5)評価を次年度に活かしている		○	

「1 2. 自己点検・自己評価」に関する取組の概要と今後の課題

昨年度見直しを行った評価項目に基づき、自己点検・自己評価を実施した。評価項目の整理により、学校の現状や課題を把握しやすくなり、評価結果を踏まえた改善に取り組んだ。

また、年1回の評価実施としたことで、各項目の評価にとどまらず、内容の分析や課題整理を行うことができた。一方で、評価結果を次年度の改善に十分反映できていない項目もみられることから、評価内容の検証や活用方法について引き続き検討を進めていく。

今後も継続的に自己点検・自己評価を実施し、教育活動及び学校運営の質向上につなげるとともに、将来的な第三者評価も見据えながら、点検項目や評価方法について継続的な見直しを行っていく。